

会議録（分科会）

令和 5 年度 芳賀町学校運営協議会(分科会) 会議録			
日 時	令和 5 年 1 0 月 3 1 日 (火) 1 0 : 0 0 ~ 1 1 : 4 5		
場 所	芳賀東小学校		
出席者	[学校運営協議会委員] 稲川 浩司 岡田 由美子 大峯 俊幸 今井 由佳 荒井 一浩 岩崎 進 (協議会委員出席 6 名)		
	[学校関係出席者] 大根田 裕一 半田 高代 高久 誠 [生涯学習課] 小林 春彦		
司 会	半田 高代	書 記	半田 高代
概 要	1 校長あいさつ（学校経営進捗状況） 2 児童活動（体力づくり）・学校農園見学 3 懇談 (1) 学校経営進捗状況等への感想・意見 (2) 学校関係者評価（案内） (3) その他		
協議事項	1 校長あいさつ（学校経営進捗状況説明を含む。） 本年度の努力点と具体策に沿って、前半を振り返る。 (1) 努力点1 「豊かな心」の育成・・・心の4か条 (2) 努力点2 「確かな学力」の育成・・・「学び合い」学習の充実 (3) 努力点3 「健やかな体」の育成・・・体力向上の推進、給食指導・栄養指導の充実 (4) 努力点4 「地域とともにある学校」の推進・・・学校支援ボランティア、ふるさと学習 地域との交流と協働 (5) 努力点5 「教職員の資質・能力」の向上・・・校内授業研究の積極的開催 2 懇 談 (1) 学校経営進捗状況等への感想・意見 【地域行事等への協力について】 稲川委員：下延生の保存会が運動会の盆踊りで演奏したが、子どもとでき、指導する側も活気が出た。 保存していく上で課題を抱えているが、今後も学校と共に協力し合えるとよいと思う。 岩崎委員：上延生の祭りも、児童の演奏で盛り上がった。 稲川委員：児童の送迎は、どのように行っているのか。 校 長：保護者をお願いしている。 稲川委員：持続可能であることが究極の目標である。芳賀中でお囃子をやった子が、大学生になっても続けている。私も今年から始めたが、楽しい。お囃子のリズムは単純で、覚えやすく取り組みやすい。 荒井委員：与能でも、お囃子がこの夏に復活した。高久先生が、指導者で、子どもも来てくれた。11月 26 日（日）が神社のお祭りで、ウォーキング大会というイベントも行う。小さい子からお年寄りまで参加。ただし、学校行事（資源物回収）と重なってしまった。日程調整の機会があるとよい。 大峯委員：地域の行事との関連から、学校行事（資源物回収）の期日を変更したが、地域の全ての行事把握までは難しかった。自治会長宛に学校暦を送ると、ある程度、把握できるのではないかと。 岩崎委員：課題として、どのタイミングで、どのような方法で、情報共有を行うかだと思う。 校 長：3月には、次年度の学校暦を配付することができる。ただし、決定ではない。		

荒井委員：自治会は、3月の頭には行事日程が決まっているだろう。

学校暦を自治会長に送る方法も一案。

生涯学習課（小林）：3月の学校運営協議会で共有することも可能。

【農園活動について】

※ 学校農園で今年できたポップコーンの試食（地域連携教員（高久）が調理）

荒井委員：（ポップコーン）町民祭で売れるのではないか。自分たちで作って売る。最高ではないか。

稲川委員：畑の場所の管理者は誰か。耕す等の維持管理を続けていく必要がある。

高久：ゴミステーションがあり代町が管理しているが、畑は町が管理となっている。

稲川委員：維持管理面でのサポートがあるとよい。どんな時、どんなサポートが必要か等、マッチングができるとうい。

岩崎委員：双方の情報共有が必要ではないか。

岡田委員：高久先生が異動後、畑の維持管理が続くような、よい方法はないか。情報共有しながら、手伝ってくれるボランティアのような人がいるとういと思う。

荒井委員：屋外だから、いつ来てくれてもよい利点がある。

岩崎委員：循環システム研究会（代表：手塚孝夫さん）とのマッチングが可能だと思う。

高久：子どもたちと時間が合えば、一緒に活動もできるだろう。

岡田委員：米作りは、どのようになっているのか。昔は、バケツ苗で、田んぼでの活動がなかった。

岩崎委員：今は、農音（代表：小林 宗男さん）が関わってくださっている。重要なのは「人」とのつながり。

岡田委員：収穫の時だけでも、顔を合わせ、お礼を言う機会があれば、それでよいと思う。謝礼は物ではなく、子どもたちの言葉で十分。ボランティア側も生きがいを感じる機会となる。

岩崎委員：謝礼は無理しなくてよい。収穫した野菜で十分。

【体力づくりについて】

岡田委員：「走り方」や「投げ方」について、事前にポイントを指導しておくとうい。練習して成果に残ると達成感がある。

稲川委員：町の水沼さんのような指導者に授業に来てもらうなど、地域の力を借りることもできるのではないか。

岡田委員：投げ方だったら、野球部の子に手本になってもらう方法もある。小学生のうちに身に付け、自信になったら宝物である。

岩崎委員：指導者には、学校からではなく、横のつながりを生かして、我々（学校運営協議委員会の委員）からつなぐとういのではないか。

今井委員：現在、カラフル（学校支援ボランティア）は、高久先生とのやり取りだけなので、広げてもよいかと思う。仲間を広げていく感覚で。コーディネーター同士の交流会もやっているのうで、それを生かせる。社協のボランティアセンターとも連携し合うことができる。

（2） 学校関係者評価について

教頭：（今年度の評価の内容と評価方法の説明）

岩崎委員：前もって、評価用紙を配付する等、考える時間が取れるよう検討してほしい。

（3） その他

生涯学習課（小林）：※新しく購入した和太鼓の紹介。

地域連携の活動によって、地域の人々が顔見知りになり、大人も勉強になる。つながりできる活動を続けていくことが大切である。中心になるコーディネーターが、地域のボランティアにつなぐ。コーディネーターの今井さんが分からないときは、学校運営協議会の委員が紹介する等、協力していく。学校運営協議会は、そのような役割も担っている。